

ONCC 12期生 てくてくウォーキング科

2025年3月7日(金)

淀河津桜・京都競馬場

当クラス最後のウォーキングは、京阪電車・淀駅から淀城跡、淀の河津桜、そして京都競馬場の探訪である。

9時50分に淀駅に集合し、淀観光協会の藤田さんの行程についての説明を受け、軽い準備体操を行った後、探訪をスタートした。



駅から2,3分のところにある與杼(よど)神社は、桂川の水上交通の守護神とされる式内社である。1607年に豊臣秀頼によって本殿と拝殿が再建されたと伝えられている。



この神社のすぐ横に淀城跡がある。淀城は、豊臣秀吉が、側室茶々のために築かせた城であるが、豊臣秀次が謀反の疑いを掛けられた時に廃城とされた。その後、江戸時代に、松平定綱が約500メートル離れた現在の場所に築城した(1623年)。しかし、幕末の鳥羽・伏見の戦いで淀城の城下町と城内の一部が焼亡した。

本丸の南東部を京阪電鉄が貫通するのを機に、保存運動が高まり、本丸周辺の整備が進み、開発の手を免れた石垣及び堀が保存されている。





淀城跡から約 10 分のところに細い水路に沿って河津桜の並木がある。

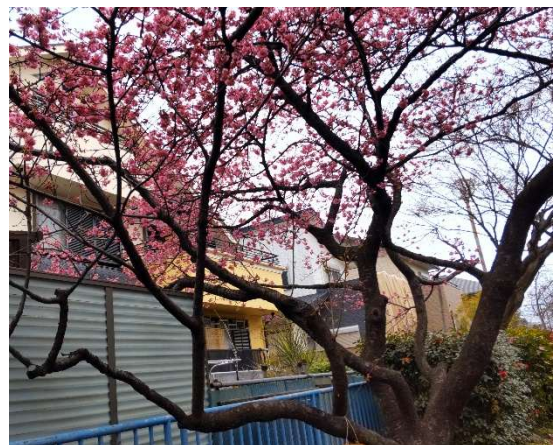
淀の河津桜は 2002 年に伊豆から取り寄せた 2 本の苗木を植樹したのが最初で、今では淀の町に 330 本、そのうち約 200 本の河津桜が 1.1 キロの淀緑地の水路沿いに咲く。この河津桜は、濃いピンク色が鮮やかで、例年では 2 月中旬頃から咲き始め、3 月末近くまで楽しめるという。

しかし、本年は冬の寒さが厳しかったためか、ほとんどの木がつぼみの状態で、桜祭りの幟



が寂しげに揺れていた。わずかに 1, 2 輪の花咲いている木が数本見られたのみである。

この並木から少し離れたところに見事に満開の状態にある一本の桜があった。この木は最初に伊豆から取り寄せた苗木の 1 本で、「正月桜」といわれている。他の河津桜と同じ遺伝因子を持ち、ピンクの色がより鮮やかで、少し早く開花するとのこと。



この後、水路に沿って少し歩いて京都競馬場についた。競馬場は大規模な改修工事が、実施され、2023年(令和5年)4月にリニューアルオープンした。

本日は休園日のため競馬場内のみどり公園には入れず、フェンスの外で、昼食をとり、解散となった。



3月とはいえ冬のような寒さの中、まだ咲いてない河津桜を見ながらのウォーキング、寒い場所での昼食と、本当に寂しい最後の探訪であった。

(4班広報担当)